

朝雲寸言

過激派組織「イスラム国」による日本人質事件は残念な結果となった。悔しい気持ちはわかるが、自衛隊が人質を救出できるようにすべきとの国会質問は現実味にかけている。

人質救出は極めて困難な作戦だ。米軍は昨年、イスラム国に拘束されて居る二人のジャーナリストを救出するため、精鋭の特殊部隊「デルタフォース」を送り込んだが、居場所を突き止められずに失敗した。

作戦に際委、米軍はイスラム国の通信を傍受し、ハッキングもしていたに違いない。さらに地元の協力者も確保し、方言も含めて中東の言語を自在に操れる作業員も潜入させていたはずだ。もちろん人質を救出するためであれば、米軍の武力行使に制限はない。それでも失敗した。

国会質問を聞いていると、陸上自衛隊の能力を強化し、現行法を改正すれば、人質救出作戦は可能であるかのような内容だ。国民に誤解を与える無責任な質問と言っている。

これまで国会で審議してきた『邦人救出』は、海外で発生した災害や紛争の際に、現地政府の承認を得た上で、在外邦人を自衛隊が駆けつけて避難させるという内容だ。今回のような人質事件での救出とは全く異なる。

政府は、二つの救出の違いを説明し、海外における邦人保護にはおのずと限界があることを伝えなければならない。私たちは、日本旅券の表紙の裏に記され、外務大臣の印が押された言葉の意味を、今一度考えてみる必要がある。

(2015年2月12日付『朝雲』より)

<http://grnba.jp/i/4/asagumo201502/>